

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	四天王寺悲田院児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～ 令和8年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の訪問支援員が在籍し、各員が豊富な経験を有している。	<ul style="list-style-type: none"> ご利用児のアセスメントおよび利用ニーズに基づき、適切な訪問支援員を選定している。 職員育成の一環として、センター内他事業の職員が保育所等訪問支援に同行し、地域の実情を見聞することで、発達に課題を有する児童の地域での過ごし方を具体的に把握できるよう取り組んでいる。 	引き続き職員(後進)育成を進め、多職種の訪問支援員の増員を図り、ご利用児の状態やニーズに応じた支援が提供できる体制整備に努めていく。
2	当施設が実施している他サービスとの連携がしやすい。(週2回登園、医療外来など)	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の理解を得たうえで、ご利用児が当施設で利用している他サービス担当者間で情報共有を行っている。 訪問支援員がご家族、所属先、サービス担当者の橋渡し役として、意識的に情報共有を実施している。 訪問終了後も他サービスにおいてアフターフォローを行いやすい環境が整っている。 	「繋ぐ」ことを重視し、当施設に限らず他事業所との連携強化にも努めていく。
3	訪問時に十分な時間を確保し、ご利用児の様子を詳細に把握できる。	<ul style="list-style-type: none"> 訪問当日には先生方と振り返りの時間を設け、ご利用児の様子を相互に共有することを重視している。 訪問時には一日の生活の様子を観察し、困りごとへの対応のみならず、ご利用児への総合的なアプローチが可能となるよう努めている。 ご利用児の様子やご家族からの情報に加え、先生方の悩みや意見も聴取し、支援に反映している。 	引き続き、ご利用児・ご家族・先生方の意見を踏まえ、総合的なアプローチが実施できるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数が定められている。	<ul style="list-style-type: none"> サービス待機児が常に一定数存在する。 訪問支援員が当施設の他業務を兼任しており、訪問枠の確保が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援員増員のため、職員育成を進める必要がある。 児童発達支援センターの中核的機能として求められる「地域のインクルージョン推進」との整合性についても検討を進める。
2	サービス利用開始までに待機が生じている。	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援員が他業務を兼任しており、ニーズ増加時に即時対応できる体制整備が難しい。 ニーズに応じて訪問職種を決定しているが、当該職種の訪問対応枠が埋まっている場合、迅速な対応が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援員増員のため、職員育成を継続する。 ニーズ増加時の緊急性を考慮し、訪問サービス希望児のアセスメントを通じて、保育所等訪問支援以外のサービス(巡回相談等)を提案できる体制についても検討を進める。
3	ご家族と連絡を取る時間の確保が困難である。	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の就労時間と当施設の開園時間が概ね同一であり、就労中のご家族と連絡を取りにくい状況がある。 ご家族から折り返しの連絡があっても、訪問支援員が他施設に訪問している場合、即時の連絡が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話連絡以外の連絡手段の導入について検討する。 急ぎの要件がある場合には、必要に応じて訪問先に手紙を預け、ご家族へお渡しいただくなどの対応も講じる。